

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	中央区
学校名	中央小学校
学校長名	田中 一郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中央小学校では、第6学年 143名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校は国語74、算数68、理科64と3教科において全国平均正答率を上回る結果となった。

【全国平均正答率との比較】

国語 +7.2ポイント 算数 +10ポイント 理科 +9ポイント

平均無回答率も全国より下回っており、粘り強く問題に取り組んでいることが伺える。

児童質問紙において、学校での授業や宿題以外にも学習を行っている児童の割合が全国に比べ高い傾向にあるが、学校での授業で話し合いや振り返りから学んだことを生かしていることもわかる良い結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

領域別で分析した場合において、すべての領域で全国平均よりも高い結果であった。特に「読むこと」に関しては10ポイント以上上回っており、基本的な知識や読み取り問題では高い定着度が見られる。一方で、記述式問題に弱点が見られ、「問題別（解答類型）調査結果」によると、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題での正答率は全国平均とほぼ変わらなかった。また、無回答の割合も文章と図表から必要な情報を見つけて記述する問題となると他の問題に比べやや高めとなった。

[算数]

領域別で分析した場合において、すべての領域で全国平均よりも高い結果であった。特に「A数と計算」「C変化と関係」「Dデータの活用」に関しては10ポイント以上上回っており、基本的な計算問題や公式の適用問題では、非常に高い正答率を維持している。一方で、目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は他の問題に比べ正答率が低い結果となった。

[理科]

領域別で分析した場合において、すべての領域で全国平均よりも高い結果であった。特に「粒子を柱とする問題」「地球を柱とする問題」に関しては10ポイント以上上回っており、各領域で基礎的な用語や現象の知識が定着しているといえる。唯一、水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかを見る問題については全国平均正答率よりも低い結果となり、基本的な知識を応用に発展させて考えることに課題がある。

児童が実体験を通して学ぶことができるよう、ブロック化による学校支援事業の予算にて学習用具を整備できたことも良好な結果に繋がったといえる。

質問調査より

全国平均、大阪市平均より顕著に高い割合であった項目は

- ・「読書は好きですか」
- ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
- ・「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」
- ・「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」

であり、学習に関する項目において高い結果となっており、児童自身が前向きに取り組んでいることが伺える。

しかし、自身に関すること、他者への思いやりに関する項目である

- ・「自分にはよいところがありますか」
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」
- ・「人が困っているときは進んで助けていますか」
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

については全国平均、大阪市平均より低い割合であり、学習すること、人の役に立つことで幸福感を得ることができ、将来仕事をするうえで自身の人生を豊かにするものであることに繋がっていない。

今後の取組(アクションプラン)

○各教科の授業において、目的に応じて文章を書く力、図表から情報を読み取って記述する力を養っていく。

○ペアやグループで交流し、思考を深め、他者の意見と比べながら自身の考えをまとめる力を養っていく。その際一人一台端末等のICTを活用し、他者の意見を共有する時と自身の意見をまとめる時の活動にどうさせることができるかを授業者も研鑽を積み重ね授業力向上に取り組んでいく。

○学習したことが実生活や将来に役立つことを実感できるように指導していく。

○家庭や地域との連携をとおして、また児童に寄り添いながら課題解決に取り組む。